

2009.11.06～2009.11.20
ベラルーシに行ってきました。

ベラルーシ面白訪問記

大学院生(1年) 関谷悠以

11月6日(金)

2週間の海外出張に向けて順調な滑り出し！と言いたいところですが、なんと最初から出鼻をくじかれるハプニングが…。高村先生、林田先生、増永さんの乗る飛行機が50分遅れ。しかも、その1時間後に関谷が乗る予定だった飛行機は欠航。ですが、林田先生が私のチケットを変更してくださったおかげで、みな無事に同じ飛行機に乗れました。

上記に加え、私は飛行機に乗る前にもハプニングがありました(苦笑) 茂里町で空港行きバスを目の前で逃したため、そこからタクシーを拾って、バスを追い抜くように運転手に頼みました。そして見事、新地のバスターミナルホテル前で無事にバスに乗ることができ、タクシーの運ちゃんに感謝です。

夜は成田のホテルの前にあるお好み焼屋さんで前夜祭を行いました。明日から頑張るぞ！！

11月7日(土)

オーストリア航空で一同ウィーンへ。ここでもまた予期せぬハプニングが…。飛行機の中で人が倒れ、高村先生、林田先生と一緒に診察をしました。経過を診ているうちに動かなかった手足が少しずつ動くようになり、幸いにも命に別条はありませんでした。今回はラッキーなことに、長崎大学が企業と共同開発した体表につける小型の線量計と心電図がドッキングしたチップを持っていたため、それを患者さんにつけて心電図をモニターすることができました。日頃多くの医療機器に恵まれて診療している私としては、飛行機の中など、機器や物資に乏しい環境下ではあたふたしてしまいました。このような環境下では、最初の問診や診察を丁寧に行うことがとても重要であることを改めて感じました。

ちなみに、倒れた患者さんはウィーン空港から救急車で病院へ運ばれ、そのまま入院されました。高村先生は病院までその患者さんに付き添ったため、私たちと一緒にウィーンの優雅な夕べを楽しめませんでした。高村先生、本当にお疲れさまでした。

11月8日(日)

ウィーンからミンスクへ。飛行機に乗る前に悪天候が伝えられ、着陸できなかつたらまたウィーンに戻ってくるとのアナウンスがありました。いよいよ着陸態勢に入り、飛行機は降下し、雲の中へ。無事に着陸できるかしら。ん？雲が晴れないぞ？と思っていたら、ドドーンと着陸しました。そうです、深い霧に覆われていたため、いつまでたっても雲が晴れないように見えたのです。この霧の中、よくぞ着陸しました。パイロットにあっ

ぱれです。長崎を離れて3日目、ようやく目的地にたどり着きました。良かった良かった！

11月9日(月)

今日から2日間は長崎大学とベラルーシ国立医科大学共催のGCOEシンポジウム「International Symposium on Chernobyl Health Effects 2009」に参加します。山下先生の開会のご挨拶で華やかに開幕！地元テレビ局の取材もありました。



シンポジウムエントランス

シンポジウム会場の様子



座長を務める高村教授

夜のレセプションでは、バラライカが演奏されました。みなさん、バラライカってどこかで聞いたことはありませんか？Puffy の名曲「アジアの純真」で「聴かせてバラライカ」という歌詞がありますよね。そう、このバラライカです。私は初めて聴きましたが、とても素敵な音色を奏でていました。美味しいお酒と料理、そして心のこもった演奏に酔いしれた夜でした。



これがバラライカ

11月10日(火)

シンポジウム2日目。私が注目した発表はウクライナでの放射線事故に関するものです。毎年40件ほどありました。結構多いですね。放射線事故は知らないところで意外と起こっているようです。エネルギーの転換で原子力の需要はさらに高まりますし、やはり放射線による健康障害に関する研究を今後もさらに進めていく必要があることを大いに実感しました。



発表する高村教授

デモンストレーションの様子

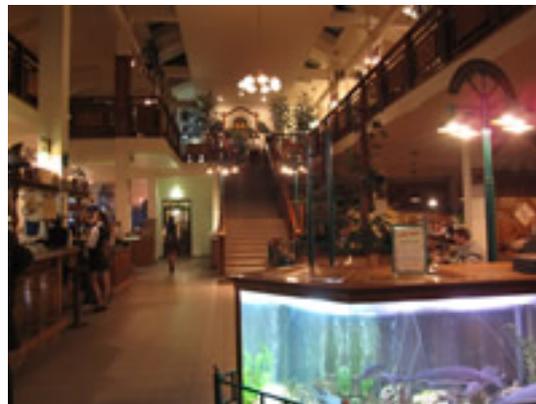
(発表はオーストリア航空機内で活躍したモニターについて)

このシンポジウムが滞りなく開催されたのは GCOE 調整官の大宮さんの多大なる働きがあったからこそ。大宮さんにとっては、このシンポジウムが長崎大学での最後の仕事でした。大宮さん、本当に引退しちゃうの？とても淋しくなります。2 年間、本当にお疲れさまでした。



レセプションであいさつする大宮さん

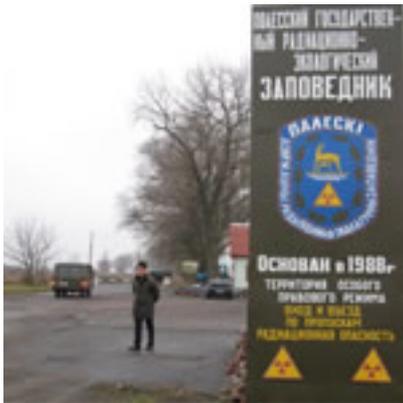
夜は高村先生がネットで検索した口コミ第3位の人気レストランへ。店に行ってみたら、なんと同じ店で GCOE 特任助教のタチアナ先生らも打ち上げを行っていることが判明し、ネットの口コミ通り、どうやら人気店のようです。期待通り、お酒も料理も美味しく(連日ですね)、大満足の夜でした。



口コミ第3位

11月11日(水)

ミンスクからゴメリへ移動しました。インフルエンザの流行に伴い、残念ながら予定されていたチェルノブイリ原子力発電所の見学はできませんでしたが、ウクライナ国境近くの危険区域まで行きました。ここで記念写真をぱちり。夕方はゴメリ医科大学の学長らと会談しました。今後も研修生の受け入れなど、教育面において協力し合っていくことを再度確認しました。



禁猟区の看板



危険区域の先には何もない

今日は昼食を食べることなく、ひたすら車を走らせ、7時間近く車に乗っていました。さすがに一同、疲労の色は濃かったです。夜はぐっすり眠れました。

11月12日(木)

国境を越え、ロシアのブリヤンスク州クリンシーへ。私は5月の出張で得た線量のデータをまとめたので、カレフスカヤ院長先生に報告しました。その後、林田先生が甲状腺結節の臨床疫学研究に関して話をし、院長先生の研究への理解と実行を確認しました。院長先生は風邪をひかれており、とてもつらそうでしたが、私たちのために出勤してくださいました。顔を見て直接話せたおかげで、意思疎通ができ、話もぐーんと進みました。今後とも良い研究関係を築いていかれそうです。まずは院長先生の風邪が早く治り、体調が戻られますように。お大事にされてくださいね。



クリンシーでのデータ報告

当教室大学院生の平良さんに頼まれた土壌の採取を行おうとしましたが、大雨でした。そこで、長靴を買いに町の商店へ行きました。しかし、いわゆるゴム長ではなく、

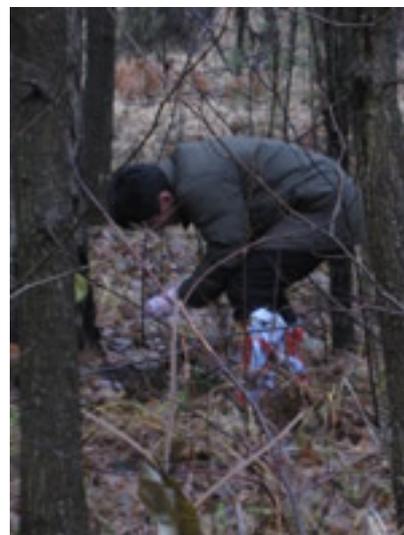
オシャレなブーツしか売っておらず、かつ値段も高かったため、断念。そこで考え出したのが「GE 流長靴」です。ビニール袋の中に靴ごと足を入れ、口をひもで縛りました。赤と黄色の色が鮮やかでオシャレな長靴です。ぜひ写真をご覧ください。高村先生、似合っていますよ。GE 流をはきこなした高村先生に、運転手も大ウケでした！



GE 流長靴



結構オシャレ

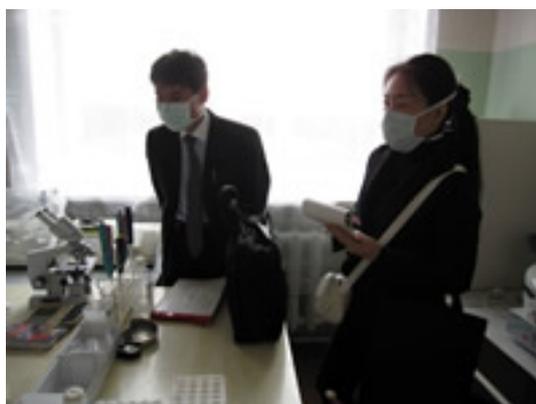


GE 流長靴での土壌採取

11月13日(金)

今日は日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)の視察団と一緒にベトカ地区へ行きました。ゴメリから車で40分の距離にある高汚染地帯です。JCFから林田先生と私に与えられた任務はベトカ地区病院に供与したホルモン検査機器の稼働状況を確認

し、地区病院の機能を把握することでした。そして、今後どのように JCF が支援していかれるか、提案することでした。地区病院の先生方から話をうかがい、院内に設置された機材を視察しました。この病院では胸部レントゲン写真がデジタル化されていて、驚きました。エコーなどの機器にも恵まれているようでしたが、これらの機器を使いこなす医師が不足しているとのことでした。医師不足は日本に限ったことではないようです。



ベトカ地区病院

視察の様子

午後はチェルノブイリ原発事故後に地図から消された村を訪ねました。ここで避難せずにとずっと残って生活している老夫婦たちに会いました。彼らは電気がない中、火をたいて暖をとり、野菜などを作って細々と暮らしていました。おじいちゃん、おばあちゃんたちは私たちの訪問を歓迎してくださり、高村先生はおばあちゃんに「大切な孫を嫁にやるわよ」と言われていました。国を問わず、高村先生は中高年のおばさまに大人気です。持参した線量計のアラームが村の近くで鳴っており、未だに高汚染地帯

であることを実感しました。おじいちゃん、おばあちゃんたちの健康が心配です。いつまでもお元気でお過ごしくださいね。



村はこの先にある

サマシヨールのおばあちゃん

11月14日(土)

今日は大きな仕事もなく、のんびりと過ごしました。午前中は林田先生と一緒に散歩に出かけました。雨もあがり、さわやかなお天気で、気持ち良かったです。お店の中に入ってみたり、川で魚釣りをするおじさんたちを眺めたり。途中、酔っ払いにからまれましたが、林田先生が助けてくださいました。

昼食は今年のNASHIM研修で我が原研疫学(GE)教室に来ていたオルガさんと一緒に食べました。高村先生はオルガさんから自作の絵画をプレゼントされました。3ヶ月もかけて描かれたようで、かなりの大作です。教授室に飾るので、「冬のゴメリ」をご覧ください。



オルガさんと「冬のゴメリ」

夕食はゴメリ医科大学副学長のカズロフスキー先生のご自宅へ招かれました。奥さまが美味しい手料理をごちそうくださり、息子さんたちはピアノとギターを演奏してくれました。仕事のみではなく、このようにカズロフスキー先生ご一家とより深い交流ができるのは嬉しいことです。今後もこの関係を大事にしていかなければなりません。

11月15日(日)

今日はウクライナのジトミール州コロステンへ。国境越えに時間がかかり、5時間かかってようやく到着しました。コロステン地域間医療センターのグデビッチ副院長の迎えを受けました。昼食後に甲状腺結節の研究に関する打ち合わせを行い、研究の詳細についての理解がなされました。やはりここでも顔を合わせて話をする事の大切さを実感しました。

コロステンでは今年、国際ドラニキフェスティバルが行われました。ドラニキはジャガイモのパンケーキで、ウクライナだけでなく、ベラルーシやロシアでも食べられる料理です。大きさは忘れてしまいましたが、今回は巨大ドラニキを作って、世界最大のドラニキとしてギネスブックに申請したそうです。このフェスティバルを記念した碑が公園にあり、ここで写真を撮りました。高村先生とドラニキの相性は抜群です。



ドラニキ記念碑

夕食はコロステン地域間医療センターの先生方と一緒に民俗資料館のようなレストランへ行きました。ここでは絵や生活道具などがたくさん飾られていました。コロステンは自称ドラニキ発祥の地だそう。夕食はもちろんだらニキが添えられた郷土料理でした。

11月16日(月)

コロステン地域間医療センターでエコー機器の稼働を視察後、市長と面会をしました。地元テレビ局のカメラが回っている中でのスタートです。市長にこれまでの研究の進捗状況や今後の研究に関する展望をお話しました。市長からも原爆後の健康障害や日本の医学教育に関するたくさんの質問を受けましたが、中でも印象深かったのは「日本にドラニキみたいなものはありますか」と聞かれたことです。「あります」と答えると、市長自ら来年の国際ドラニキフェスティバルへの出展を頼んできました。GEが日本代表となり、ぜひ日本版ドラニキ(コロッケ?おやき?)を出展したいですね!もちろん高村先生にはGEと背中に大きく書かれたはっぴを着ていただく予定です。

ゴメリへ帰る途中、暗闇の中で土壌を採取しました。「近くにお墓があるよ」と運転手は教えてくれましたが、これは耳にしたくない情報でしたね(苦笑)

11月17日(火)

午前中はゴメリ医科大学で2度目の学長との面会です。これまで以上にゴメリ医科大学と我が長崎大学の協力関係を強固にするべく、ゴメリ側からたくさんの研究テーマの提案がありました。その中に母子保健も挙げられていたので、高村先生は早

速 12月11日に長崎追悼平和祈念館から衛星回線を介し、母子保健に関する遠隔講義を行うこととなりました。午後はゴメリ医科大学内にあるテレメディシンセンターを訪問。ここはゴメリから車で40分程離れたホイニキ地区の病院と回線がつながっており、遠隔診断ができるようになっています。この回線を利用して、高村先生の講義をホイニキ地区の病院で働く医療関係者にも聴講していただく予定です。



テレメディシンセンター

以前 NASHIM 研修で長崎へいらしたマリーナさんにもお会いしました。GE の大学院生になられるかもしれません。チェルノブイリ原発事故後に小児甲状腺がんとなり、手術を受けられました。今は医師としてゴメリで働いています。長いブロンドの髪に颯爽と歩く姿が印象的で、長崎へ来られたら日本のおじさまも思わず振り返る美しさです。

11月18日(水)

ついにベラルーシ最終日。ゴメリからミンスクへ戻り、ミンスクで最後の土壌採取を無事に終えて、大宮さんのご自宅でランチのもてなしを受けました。大宮さん、助教のタ

チアナ先生、そしてミンスク代表部会計士のタチアナさんの手料理による豪華なランチが用意されていました。大宮さんお手製の魚の煮つけとおかゆは連日の肉料理で疲れた私の胃を癒してくれました。ごちそうさまでした。



雨の中での土壌採取

夕方、便でウィーンへ行き、行動的な林田先生と私は夜の街へ繰り出しました。目当てはクリスマスマーケット。輝かしいイルミネーションの広場にたくさんの店が立ち、オーナメントやお菓子、おもちゃなどが売られていました。私たちは香辛料やフルーツが入った赤ワインを温めて作るグリューワインを飲み、クリスマスマーケットでの買い物を楽しみました。ちなみに、私たちが外出している間、高村先生はホテル内のジムで走っていらっしゃいました。美しいウィーンの夜を楽しまないなんてもったいないわ。

11月19日(木)

高村先生がホテルで仕事をされている中、この日も朝から林田先生と私はウィーンの街へ出かけ、シェーンブルン宮殿の庭を散策したり、土産屋めぐりをしました。シェーンブルン宮殿の庭ではジョギングをしている人がたくさんいました。高村先生にはホテル内ではなく、ここでのジョギングをおススメします。お土産の第一候補はザッハトルテです。チョコレートケーキの王様と称されるザッハトルテは、もともとウィーンにあるホテルザッハーの名物菓子でした。このザッハトルテを購入するべく、ホテルザッハーにも足を踏み入れましたが、日本へ郵送するとケーキの倍以上の値段がかかることが判明。そのため、空港で買って、手荷物で持ち帰ることにしました。私たちは午後の便で成田へ向けて出発。帰りの便は平穏無事に過ごしました。



シェーンブルン宮殿にて

11月20日(金)

成田から羽田へ、羽田から長崎へ。2週間の長旅から無事に帰ってこられました。今回もあちこちへ移動して密なスケジュールでしたが、それぞれの地で現地の先生方と充実した話し合いを行い、協力関係をより深めることができました。そして、大宮さんの後任でいらっしゃる高橋さんともこの旅で親しくなれました。高橋さんには我がGEの愉快的仲間たちの話をたくさんしましたが、まだ会ったことがないため、高橋さんにとっては想像上の人物でしかありません。高橋さんが帰国された際には、我々GEの仲間として歓迎しましょう。GE仲間のあまりにもキャラの濃さにびっくりされるかも(笑)!

2週間お疲れさまでした!!

ベラルーシ出張日程表

日付	日程
11/6 (金曜)	長崎→羽田 成田泊
11/7 (土曜)	成田→ウィーン ウィーン泊
11/8 (日曜)	ウィーン→ミンスク ミンスク泊
11/9 (月曜)	GCOE シンポジウム ミンスク泊
11/10 (火曜)	GCOE シンポジウム 日本大使館訪問 ミンスク代表部訪問 ミンスク泊
11/11 (水曜)	ゴメリ医科大学訪問 ゴメリ泊
11/12 (木曜)	ロシア クリンシー診断センター訪問 ゴメリ泊
11/13 (金曜)	JCF と一緒にベトカ地区病院訪問 ゴメリ泊
11/14 (土曜)	NASHIM 研修生 オルガさんと面会 ゴメリ泊
11/15 (日曜)	ウクライナ コロステン地域間医療センター訪問 コロステン泊
11/16 (月曜)	コロステン地域間医療センター訪問 ゴメリ泊
11/17 (火曜)	ゴメリ医科大学学長と面会 NASHIM 研修生 マリーナさんと面会 テレメディシンセンター訪問 ゴメリ泊
11/18 (水曜)	ゴメリ→ミンスク→ウィーン ウィーン泊
11/19 (木曜)	ウィーン→成田 機内泊
11/20 (金曜)	羽田→長崎